

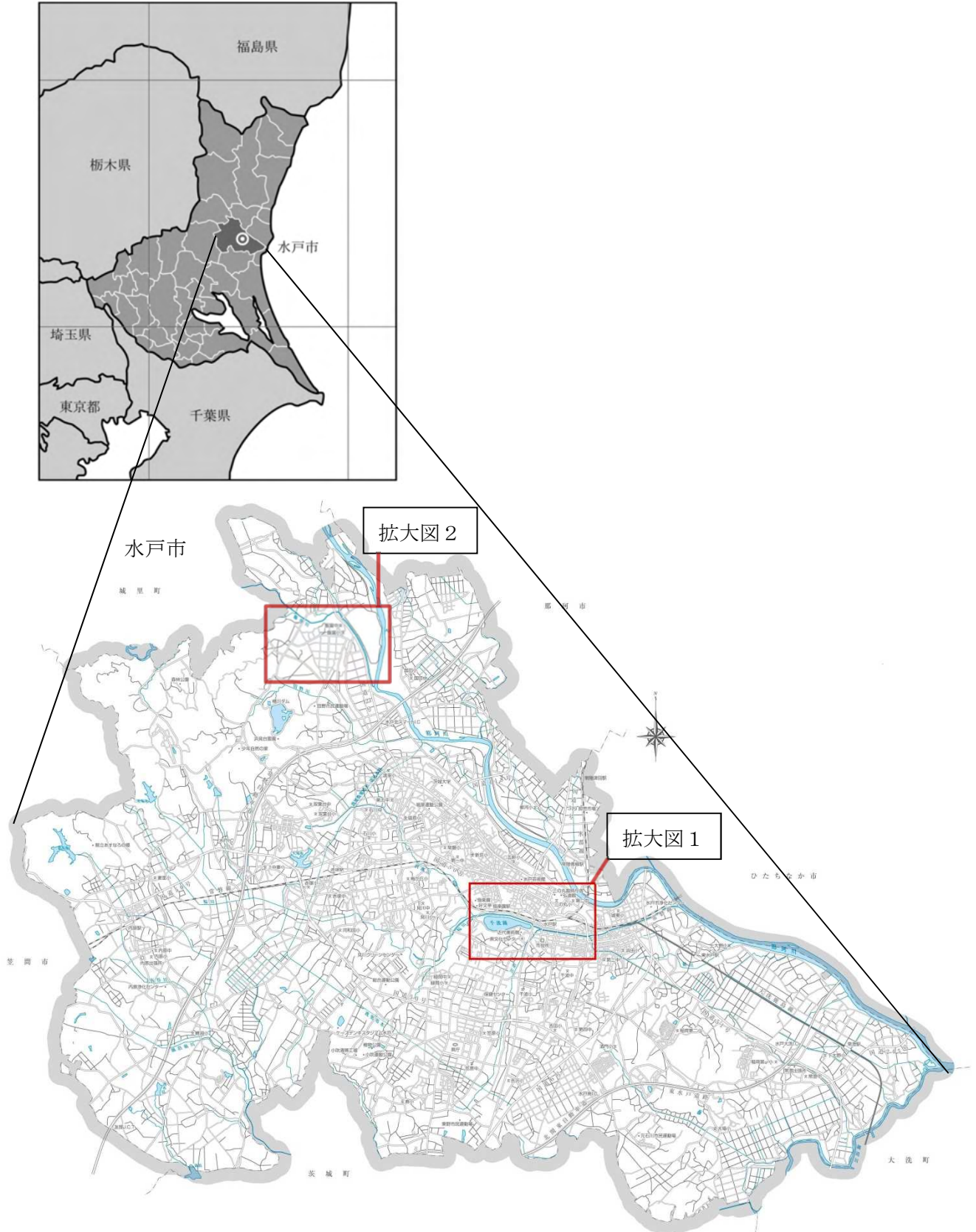
① 申請者	◎水戸市, 足利市, 備前市, 日田市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。			
			
旧弘道館 (茨城県水戸市)		足利学校跡 (栃木県足利市)	
			
旧閑谷学校 (岡山県備前市)		咸宜園跡 (大分県日田市)	

市町村の位置図 (全国地図)



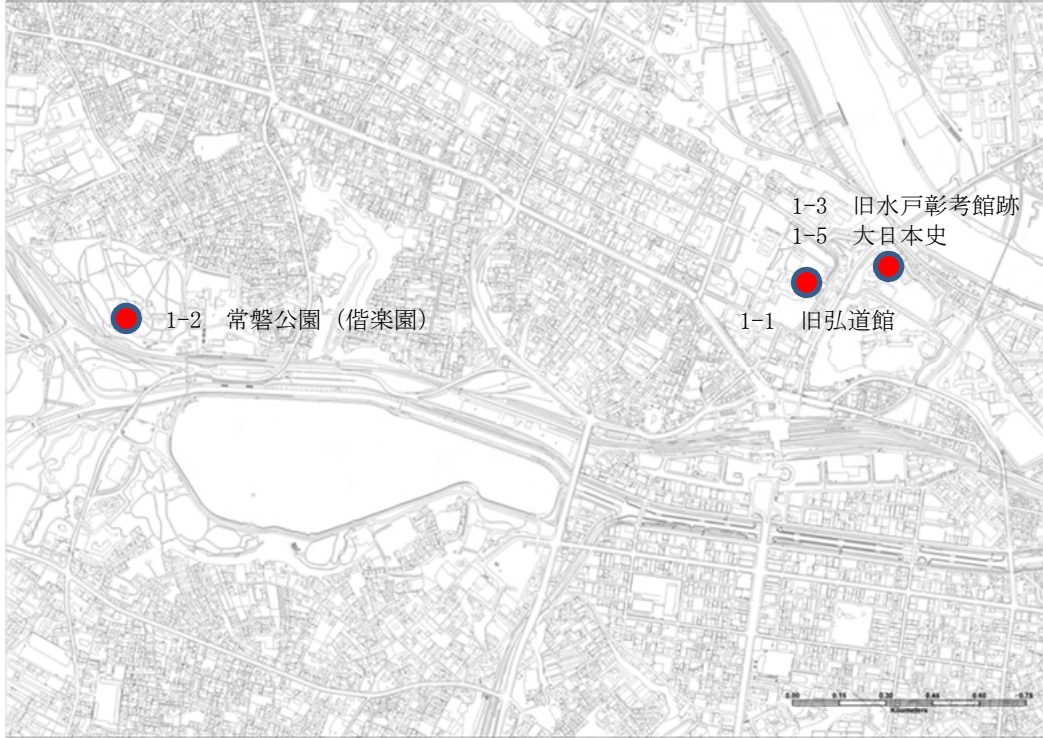
市町村の位置図 (水戸市)

茨城県



構成文化財の位置図 (水戸市)

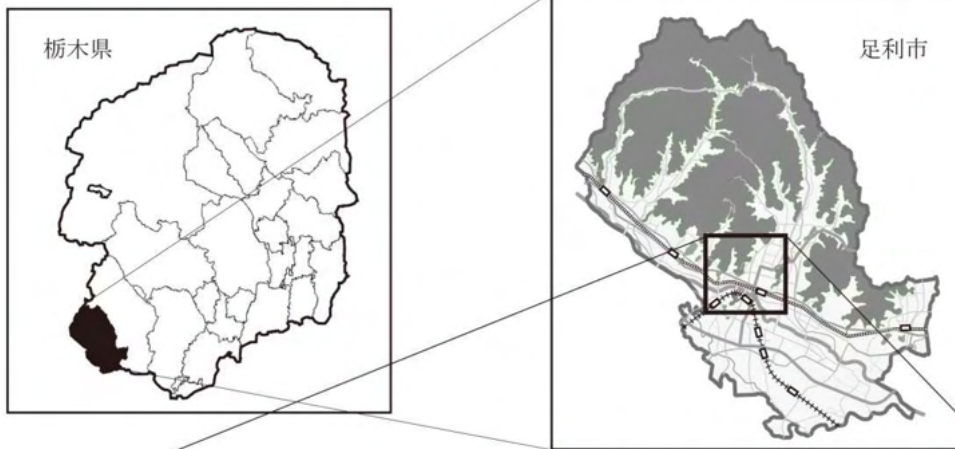
拡大図 1



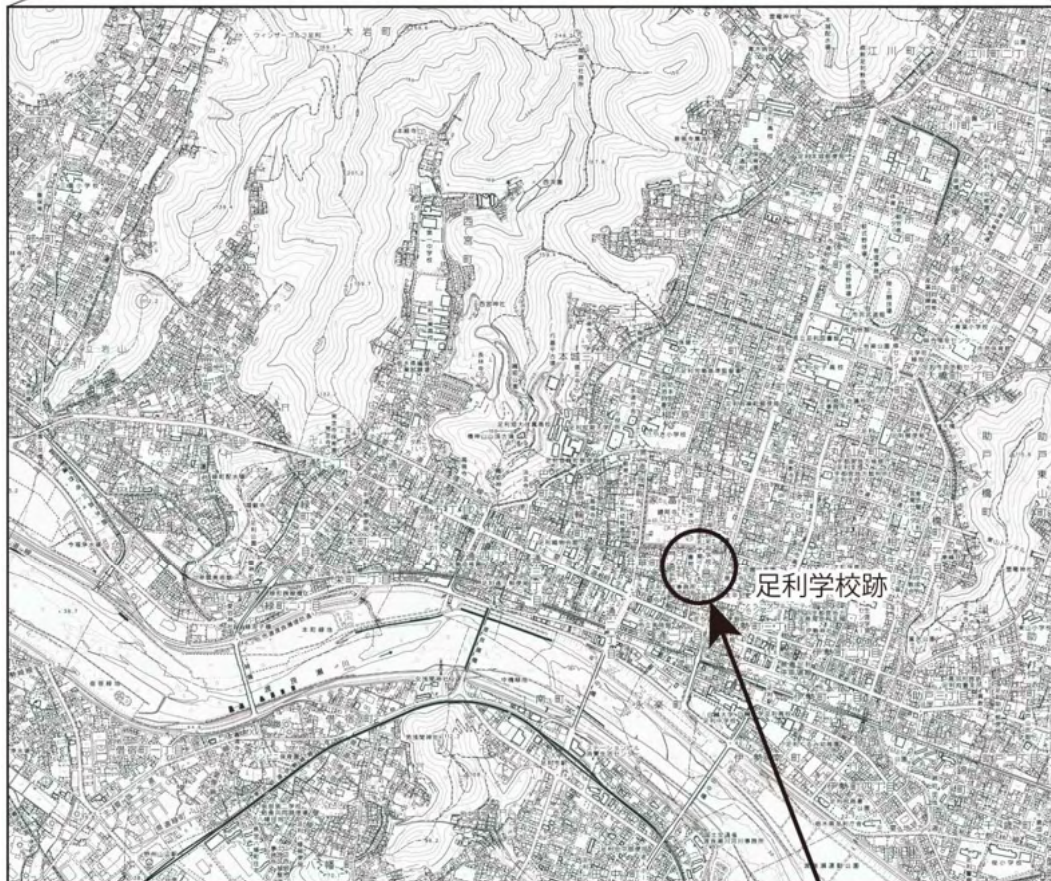
拡大図 2



市町村の位置図（足利市）

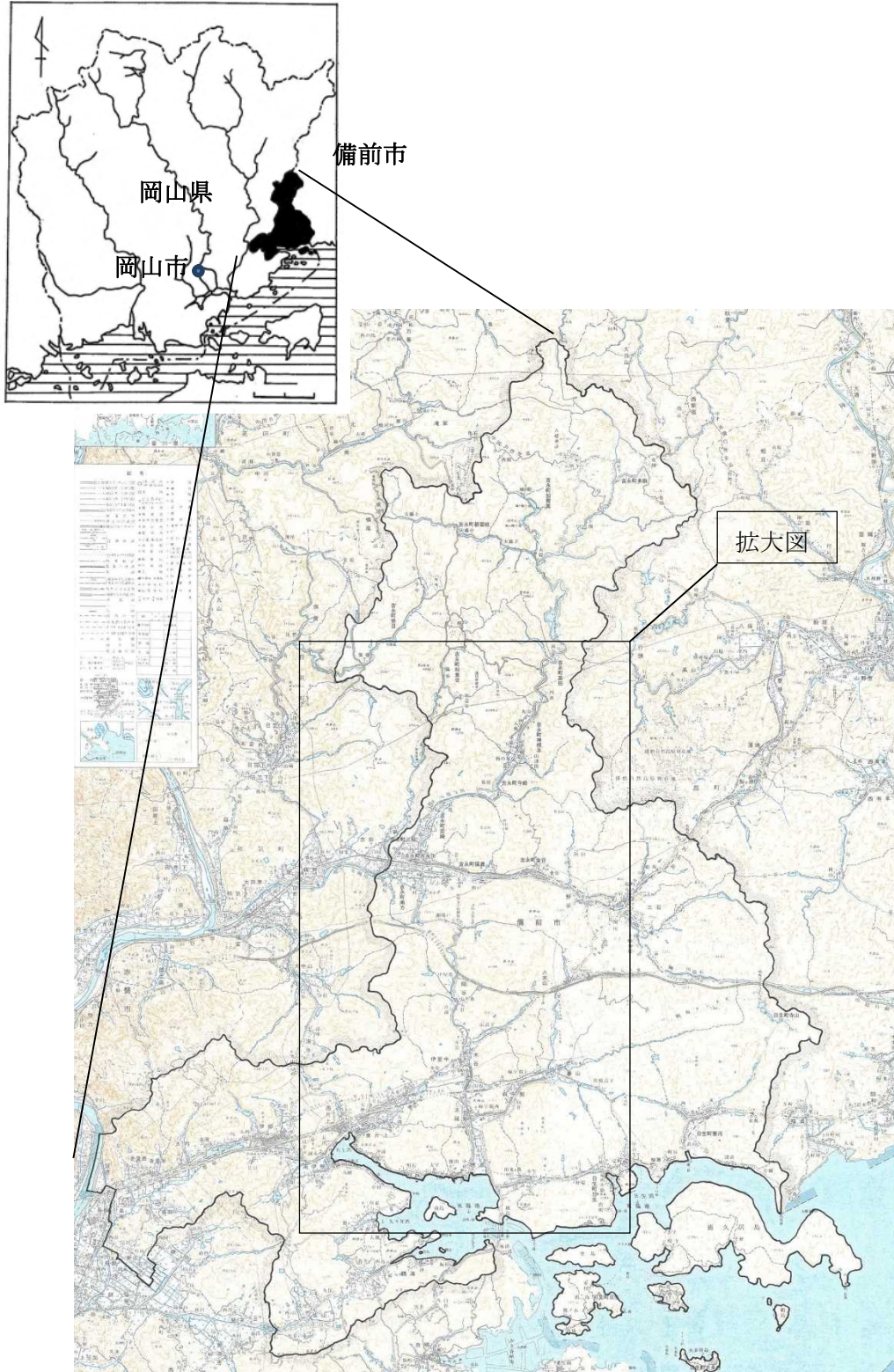


構成文化財の位置図（足利市）



- 2-1 足利学校跡
(聖廟および附属建物を含む)
- 2-2 国宝漢籍
『礼記正義』『尚書正義』
『文選』『周易注疏』
- 2-3 釋奠

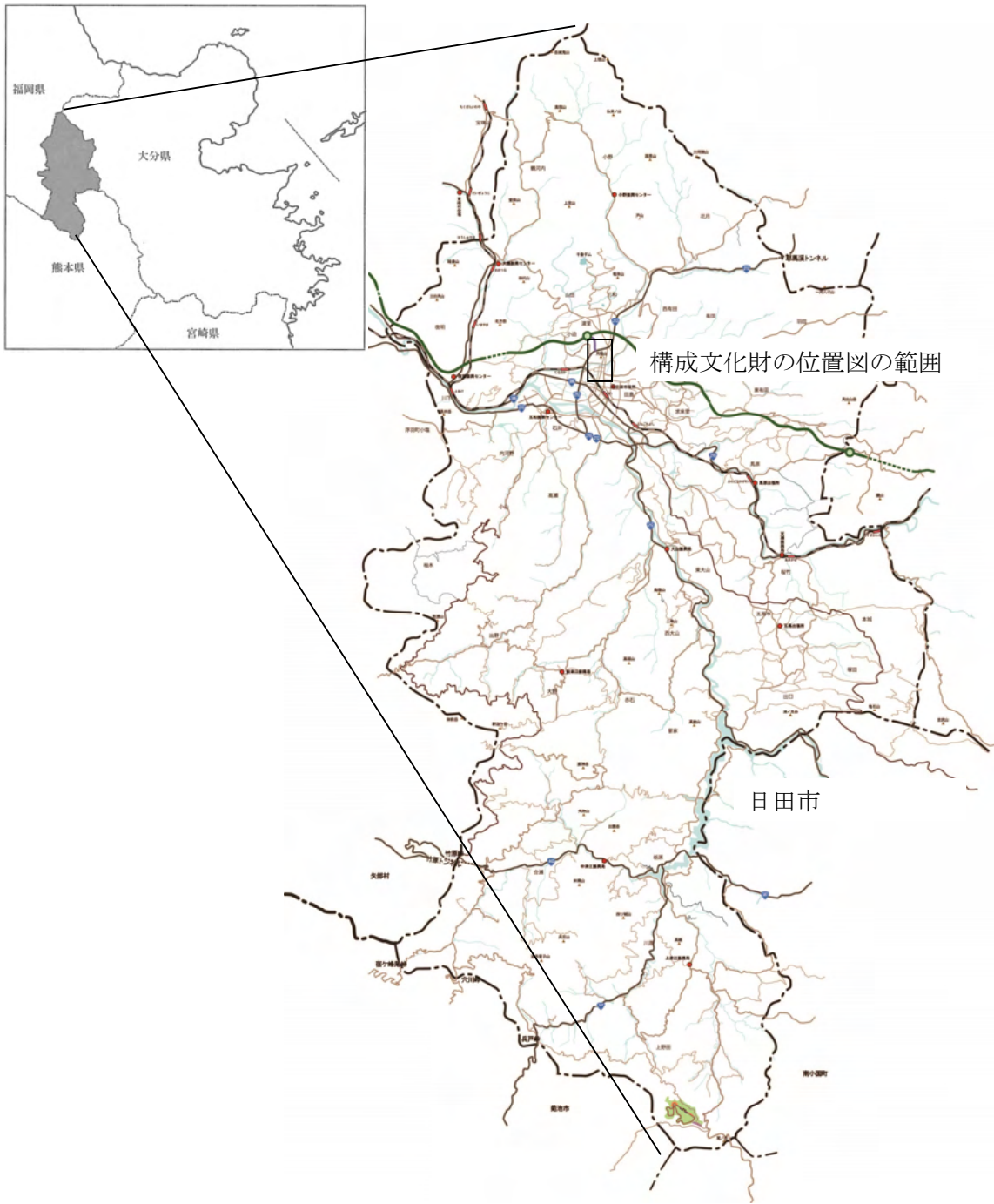
市町村の位置図 (備前市)



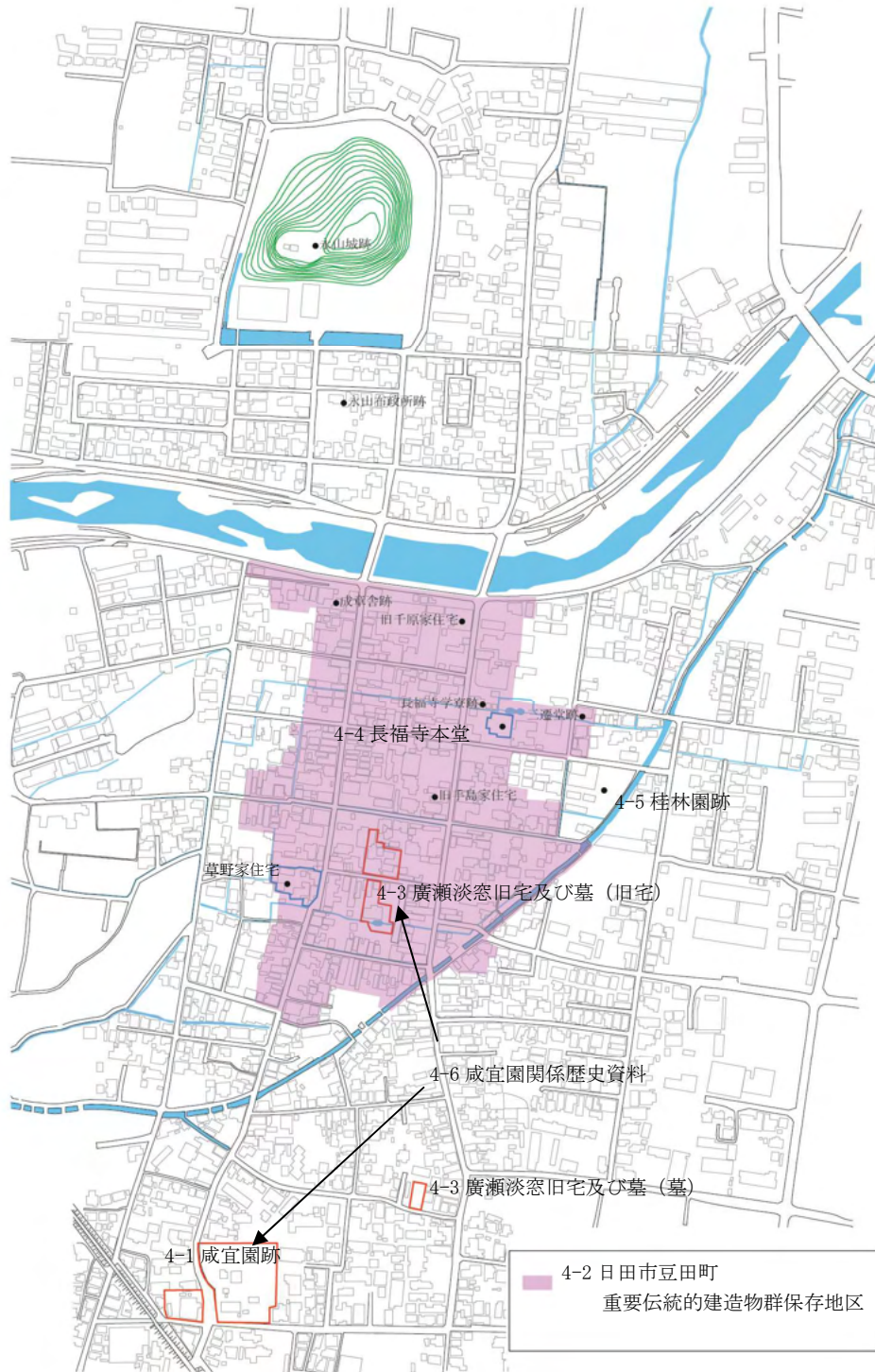
構成文化財の位置図 (備前市)



市町村の位置図 (日田市)



構成文化財の位置図 拡大図 (日田市)



ストーリー

1 外国人から見た近世日本の姿

近世日本を訪れた外国人は、紀行文に日本人の様子を書き記しています。

イギリス領時代のカナダ出身の冒険家、ロナルド・マクドナルドは「日本回想記」の中で、「日本人のすべての人—最上層から最下層まであらゆる階級の男、女、子供—は、紙と筆と墨を携帯しているか、肌身離さずもっている。すべての人が読み書きの教育をうけている。また、下級階級の人びとさえも書く習慣があり、手紙による意思伝達は、わが国におけるよりも広く行われている。」と述べています。

また、イタリア人宣教師、アレシヤンドロ・ヴァリニャーノは、「日本巡察記」で「人々はいずれも色白く、きわめて礼儀正しい。一般庶民や労働者でもその社会では驚歎すべき礼節をもって上品に育てられ、あたかも宮廷の使用人のように見受けられる。この点においては、東洋の他の諸民族のみならず、我等ヨーロッパ人よりも優れている。」と記録しています。

これらの記述からは、当時の日本人が、他の諸外国と比較して、身分や性別を越えて高い読み書き能力を持ち、礼儀正しさを身につけていた様子が分かります。

こうした教育の伝統が継承され、明治維新後の日本の近代化が進められたことをロナルド・ドーアなどの欧米の研究者は、「近世日本の教育こそが日本近代化の知的準備をした。」として高く評価しています。

このようなエピソードからも分かるように、近世の日本では高い教育を受けた層が社会全体に広がっていました。外国人にとっては、一見ただけで相手の身分を判断することは困難なほどでした。

2 近世日本を支えた学校の普及

近世の日本人が高い教養を身につける上で大きく貢献したのが、全国各地に建てられた学校です。

その学校の始まりと言えるのが、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが「日本国中最も大にして最も有名な坂東の大学」と称した足利学校です。足利学校の創建については諸説ありますが、15世紀、上杉憲実^{のりざね}は学規を定め、現在国宝となっている漢籍^{かんせき}を寄進するなどして足利学校を再興し、戦乱の時代においても全



国から多くの学徒が集まりました。その教えは、儒学を中心としながらも、易学・兵学・医学など多岐にわたり、日本最古の総合大学と呼ぶにふさわしいものでした。

江戸時代になると、足利学校は、貴重な書籍の宝庫として、幕府から保護されました。足利学校の自由で開放的な学びと自学自習の精神は、近世の学校の原点と言えます。

一方、足利学校以外にも積極的に教育に取り組んだ藩主たちが各地に学校を設立していきました。

岡山藩主の池田光政は庶民の教育も不可欠と考え、閑谷学校^{しずたにがっこう}を創りました。光政は熊沢蕃山^{くまざわばんざん}から学んだ儒教思想にのっとり、緑の生い茂る閑かな山村に教育の理想を体現しました。現在国宝となっている講堂などの建物や石堀などの施設は、火災や雨から守り長持ちさせるための工夫がされており、学校存続への強い願いが表れています。経済基盤としては井田村下井等の学田^{いたむらしもい}を持たせて学校の永続を図りました。日本最古の庶民教育学校とも呼べる閑谷学校^{がくでん}では、広く門戸を開き、他領からも多くの生徒が集まりました。

また、18世紀以降多数の藩校が建設されますが、その配置計画は閑谷学校のように日本的なものが大多数となっていきます。したがって閑谷学校は日本の学校建築の出発点に位置し、現存最古の代

表例といえます。

江戸時代後期には、個人が経営する私塾も日本全国に数多く生まれてきました。

幕府の代官所が置かれた豊後日田では、町人を中心とした自由な風土が生まれ、廣瀬淡窓が咸宜園という私塾を創設しました。咸宜園では、毎月成績評価を行う「月旦評」などの特色ある教育が全国的な評判となり、各地の私塾に影響を与えるとともに、全国60か国以上から5,000人を超える門下生を集め、日本最大規模の私塾となりました。咸宜園に隣接する豆田町には、淡窓の日記や入門簿・会計録などの史料が伝わる淡窓旧宅や長福寺などの町並みが残り、その周辺では、咸宜園である前身の桂林園跡や塾主の墓を見ることができます。

また、幕末に頻繁に起こった外国船の接触によって、時代を切り開く力を持った有能な人材の育成が必要となり、実力主義や幅広い科目を教える学校が広がっていきました。

弘道館は、水戸藩主の徳川斉昭が教育によって人心を安定させ、国を興すために設立した日本最大規模の藩校です。水戸藩には、歴史書『大日本史』を編集した彰考館があり、昔から学問・教育が盛んでした。弘道館は、歴史だけでなく、医学、兵学、武芸など実用的な科目も備えた総合大学ともいえるもので、その教育方針や施設、運営方法等は松代藩校文武学校や庄内藩校致道館等の他藩の藩校にも大きな影響を与えました。一方、偕楽園は勉学の休息の場として位置づけられ、弘道館と対をなしていました。偕楽園の梅は、非常食になる実用的側面と、学問を好む「好文」という異名を持つことから斉昭が植樹を奨励したもので、水戸藩の学問興隆の象徴となっています。郊外にも個性重視の教育を行った日新塾など、特徴的な私塾が建てられ、多彩な門人を輩出しました。

こうした日本の学校は、中央政府である幕府ではなく、民間や藩が主導して発展していったことに特徴があり、幅広い教育を行うことができました。

3 現代に継承される近世日本の教育

これまで紹介してきた、近世日本を代表する教育遺産群では、現在でも論語の素読やいろはかるたなど、当時の教育内容を同じように体験することができます。これらの学校は、過去の遺産ではなく、現在でも生きた学びの場であり続けています。

近世学校の原点としての威厳が漂う足利学校では、国内に現存する最古の聖廟が残り、11月には孔子を祀る釋奠という祭礼が行われます。足利学校と同じく孔子を祀る釈菜という祭礼が受け継がれている“学びの原郷”閑谷学校では、日曜日になると、論語の朗誦が静かな山間に響き渡り、往時の姿を偲ばせます。

咸宜園と豆田の町並みを歩けば、江戸時代の「学園都市」や町人文化の空気に触れられますし、弘道館や偕楽園を訪れると、ほんのり甘い梅の香りとともに、水戸藩の学問の伝統を感じられるでしょう。

近世の日本ではこうした学校とその周辺を取り巻く環境を舞台に営まれてきた教育の成果によって、世界でも類を見ないほどの高い教育水準を実現し、それが明治維新以降のいち早い近代化の達成につながりました。一方、こうした教育は、礼節を重んじるという日本人の国民性を形づくってきました。現在、日本人のマナーの良さは世界中で高く評価されています。まさに近世日本の教育は、現代にも継承されている「世界に誇る日本の教育」だったと言えるでしょう。



ストーリーの構成文化財一覧表（水戸市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地 (※4)
1-1	きゅうこうどうかん 旧弘道館	国特別史跡	総合大学ともいえる藩校の代表例。医学館では種痘が実施され、徳川斉昭は実子2人に種痘を行うなど、領内に普及を図った。現在でも館内では、論語教室が行われている。	茨城県水戸市
1-2	ときわこうえん 常磐公園 かいらくえん (偕楽園)	国史跡及び名勝	弘道館と一对の教育施設として造られた庭園。園内には、学問興隆の象徴として、「好文木」として知られる梅が植樹された。	茨城県水戸市
1-3	きゅうみとしょうこうかんあと 旧水戸彰考館跡	未指定	徳川光圀により開設された「大日本史」の編纂局。光圀に招かれた明の儒学者朱舜水是、水戸藩の修史事業に大きな影響を与えた。	茨城県水戸市
1-4	にっしんじゅくあと 日新塾跡	市史跡	弘道館と同時期に水戸藩郊外で運営された私塾。水戸藩士を含む多彩な門人を輩出した。多様な教育科目を備え、医学も盛んであった。	茨城県水戸市
1-5	だいにほんし 大日本史	未指定	水戸徳川家第2代藩主徳川光圀によって開始され、水戸藩の事業として継続し、明治時代に完成した歴史書。	茨城県水戸市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（足利市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
2-1	足利学校跡 (聖廟および附属建物を 含む)	国史跡	現存する日本最古の学校の遺跡。我が 国儒学の学灯を伝える学問の府とし て全国より学徒が集った。自由で開放 的な学びと自学自習の精神は、近世の 学校の原点となった。なお、聖廟は国 内現存最古のものである。	栃木県足利市
2-2	国宝漢籍 『礼記正義』『尚書正義』 『文選』『周易注疏』	国宝（書跡）	漢籍を中心とした貴重な書籍の宝庫 である足利学校は、近世期も全国から 学者や著名人が訪れ、蔵書の閲覧や研 究が行われた知のネットワークのセ ンターであった。	栃木県足利市
2-3	釋奠	市民俗	聖廟では、孔子のまつりである釋奠が 営まれる。伝統的な祭器を用い、現在 は毎年11月23日に行われている。	栃木県足利市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、
県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明になら
ないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまた
がる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（備前市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
3-1	きゅうしずたにがっこう 旧 閑谷学校	国特別史跡 国宝・国重文	岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校で、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化遺産。	岡山県備前市
3-2	せきさい 釈菜	未指定	江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、ここでは孔子の徳を称える釈菜の儀式が行われた。閑谷学校では、貞享3年(1686)から始まり、現在も行われている。	岡山県備前市
3-3	いたむらのぶはら 備前国和気郡井田村延原家文書	未指定	検地帳などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子どもたちが学校に通う様子がわかる。	岡山県備前市 (備前市歴史民俗資料館)
3-4	くまざわぼんざん 熊沢蕃山宅跡	市史跡	池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学んだ。蕃山隠居の地が学校から程近いところに残る。	岡山県備前市
3-5	せいでん 井田跡	市史跡	池田光政が中国周時代の土地制度である井田制を再現させた新田。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえた。	岡山県備前市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡, 国重文, 県有形, 市無形, 等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

ストーリーの構成文化財一覧表（日田市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地 (※4)
4-1	かんぎえん 咸宜園跡	国史跡	廣瀬淡窓が創設した近世日本最大規模の私塾跡。	大分県日田市
4-2	まめた 日田市豆田町 重要伝統的建造物群 保存地区	国重伝建	私塾咸宜園と共生した町並みが残る。	大分県日田市
4-3	廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓が現存する。	大分県日田市
4-4	ちょうふくじほんどう 長福寺本堂	国重文	淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。	大分県日田市
4-5	けいりんえん 桂林園跡	未指定	咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に著名な「休道の詩」（桂林荘雜詠示諸生）が詠まれた。	大分県日田市
4-6	咸宜園関係歴史資料	未指定	私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。	大分県日田市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧 (水戸市)

1-1 旧弘道館



1-4 日新塾跡



1-2 常磐公園 (偕楽園)



1-5 大日本史



1-3 旧水戸彰考館跡



構成文化財の写真一覧（足利市）

2-1 足利学校跡（聖廟および附属建物を
含む）



2-2 国宝漢籍

『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』



2-3 釋奠



構成文化財の写真一覧 (備前市)

3-1 旧閑谷学校



3-4 熊沢蕃山宅跡



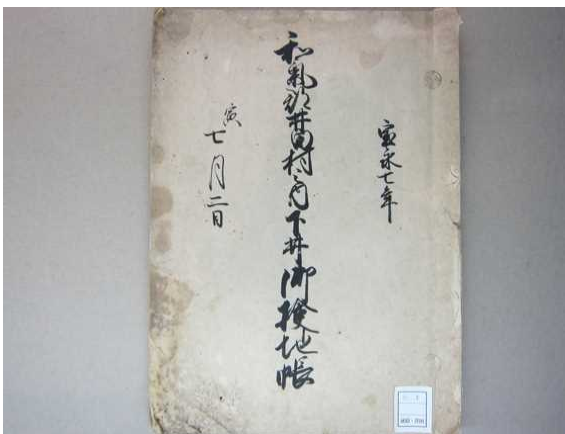
3-2 釈菜



3-5 井田跡



3-3 備前国和气郡井田村延原家文書



構成文化財の写真一覧 (日田市)

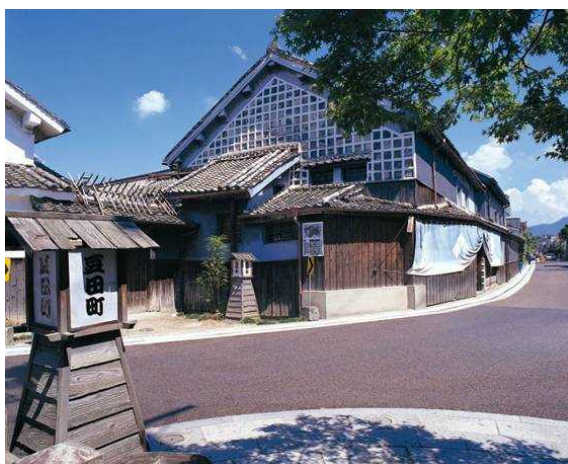
4-1 咸宜園跡 (秋風庵)



4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓 (墓)



4-2 日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区



4-4 長福寺本堂



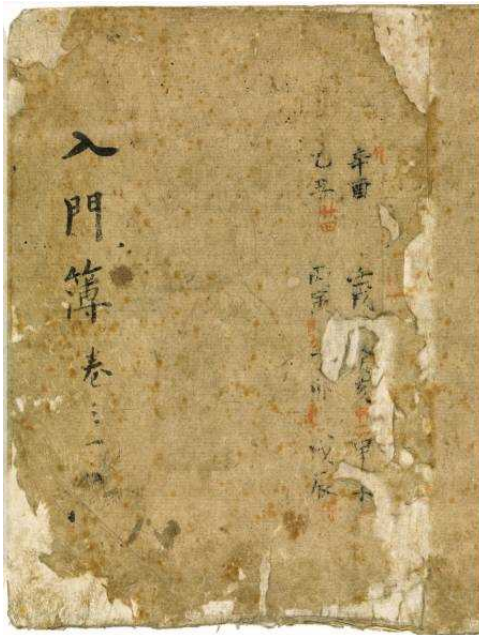
4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓 (旧宅)



4-5 桂林園跡 (現・桂林荘公園)



4-6 咸宜園關係歷史資料



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

水戸市 (弘道館・偕楽園ほか)、足利市 (足利学校ほか)、備前市 (閑谷学校ほか)、日田市 (咸宜園・豆田町ほか) には近世日本の教育遺産群が点在している。近世日本は、身分制社会であるものの、身分を超えた多くの学びの場が準備され、広域での知的ネットワークが形成された。このような環境で、近世日本の人々は来日した諸外国の人々が驚くほどの高い教育水準を有し、礼儀・作法を重んじた。その教育水準の高さは明治以降の日本の近代化に貢献し、礼節を重んじる姿勢は日本人の気質に今も脈々と受け継がれている。近世日本の教育遺産群の存在なしに日本の歴史・文化を語ることはできない。

このような貴重な遺産群をもとに、現在4市は近世日本の知的ネットワークに倣って広域で連携し、世界で稀有な事例である近世日本の学びを実現する場として、世界文化遺産への登録を目指している。

あわせて、地域の活性化や観光振興、街づくり、そして人づくりに生かすことを目標とする。具体的には、歴史的背景を踏まえつつ「近世日本の教育遺産」の魅力を広くPRして、日本遺産を中心とした地域の歴史や文化に誇りや愛着を持つ人材を育成する。また、四市はもとより、同じく日本遺産に認定されている別のストーリーとも交流の機会をもつことで、教育遺産群の魅力を広く理解してもらい、地域間の交流人口や観光客の増加を目指す。

次に、教育遺産群をより深く理解してもらえよう、構成文化財の案内や市内の展示施設の充実を図り、VR技術の活用や多言語ガイド設備の整備を推進する。それらを活用し、構成文化財や認定されたストーリーの魅力を国内外に発信することで、日本遺産はもとより地域の歴史・文化に関する認知度向上を目指す。こうして、多くの人材が育ち、教育遺産群がより多くの人に興味関心を持たれることになり、交流人口や国内外の観光客が増えるという好循環サイクルが誕生する。

以上の将来的なビジョンに基づき、地域活性化のための取組を推進する。

(2) 地域活性化のための取組の概要

(1) 国内外に向けて、構成文化財の魅力を発信し、さらなる教育遺産の認知度向上を目指す。

- ・日本遺産ポータルサイトや協議会のホームページ、リーフレット等の多くの情報ツールや展示スペースを整備・活用し、国内外に構成文化財やストーリーを情報発信して、引き続き教育遺産の認知度向上を目指す。

(2) コロナ禍の終息を意識したインバウンド整備を充実させる。

- ・コロナ禍終息後に、速やかに外国人観光客を受け入れられる体制をより一層整えるため、多言語案内板や文化財のデジタル化など外国人観光客に対応した環境整備を進める。

(3) 広域での地域交流・観光振興を活性化させる。

- ・4市間の地域交流だけでなく、各市それぞれが県内や近隣地域の日本遺産認定団体との地域間交流や観光面での連携を図り、各種イベントや講演会、シンポジウムを実施し、教育遺産の認知度を高めると共に、全体の交流人口と観光客の増加を目指す。

(4) 日本遺産を中心に、地域の歴史や文化に誇りを持つ人材を育成する。

・4市には日本遺産の構成文化財以外にも地域の誇りとなる歴史や文化財が存在する。ガイドボランティアや地域コミュニティ組織に対して学習会を行うとともに、若年層に向けて、リーフレットの配布や出前授業を実施し、将来の担い手となる人材を育成する。

(5) 協議会の体制強化を図り、構成文化財の保護や整備、活用に寄与する。

・4市より拠出している負担金や協議会ホームページでの有料広告収入、各市のふるさと納税などにより安定した収入を得ることで、協議会の自立した活動体制を強化する。

また、ふるさと納税を中心に得た収入を構成文化財の修繕や施設整備などに活用する。

(3) 自立的・継続的な取組

日本遺産の認知度や地域の歴史・文化に対する誇りを醸成するため、若年層に向けて学習教材やリーフレットを配布すると共に、出前講座を実施する。地域住民に対しては、講演会や企画展示などを通し、日本遺産の認知度向上を目指す。

また、日本遺産の地域の担い手の育成や観光面での継続的な取組みとして、観光ボランティアガイド向けの講習や地域コミュニティ向けの現地見学会・学習会を実施し、質を高めていく。

さらに、各地域における日本遺産の認知度や地域文化の醸成、広域での観光振興を図るため、県内外の日本遺産認定地域との連携を推し進めていく。

自立に向けた取組として、日本遺産の補助金で制作したホームページに民間企業の広告を有料で掲載し、協議会の運営資金にするとともに、各市では構成文化財などの保存や活用、地域の観光・文化振興、魅力発信などに使用用途を限定したふるさと納税の寄付募集を推し進めていく。

(4) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産の構成文化財を長期的に継承していくためには、構成文化財の保護・保存や周辺環境の整備、観光誘客拠点としての活用が重要になってくる。

その為に、現在実施している取組と将来的にわたり継続して実施すべき取組を記載する。

○構成文化財の保存・活用の取組

- ・ふるさと納税を活用した構成文化財の施設整備
- ・市や県による構成文化財や周辺地区の整備（誘導路、駐車場、トイレなど）
- ・公募設置管理制度（Park-PFI）を活用した、民間提案による観光駐車場や誘客施設の整備
- ・都市景観形成助成費を活用した構成文化財周辺の景観・環境整備
- ・補助金を活用した構成文化財の施設整備

＊誘導路のバリアフリー化、ガイダンス設備の充実、歴史的建物の復元等

○構成文化財の継承のための取組

- ・小中学校への出前授業の実施や学習教材の配布
- ・市民に向けた出前講座や講演会、シンポジウムなどの普及啓発事業の実施
- ・ガイドボランティアをはじめとした日本遺産地域プレイヤーの育成
- ・民間事業者や地域住民と共同での事業展開や商品開発提案
- ・構成文化財の復元、整備、活用に係る調査

(5) 他の観光施策との連携

- ・認定地域内には日本遺産の構成文化財以外にも、大きな魅力をもつ自然、歴史、文化に関わる観光資源が多く存在しており、観光協会などによる観光モデルルートの形成など各市の観光政策のなかで有機的なつながりを持たせている。
- ・構成文化財やその周辺に観光客用の駐車場を整備したり、宿泊施設を併設するなど受入環境の整備にも重点を置いている。
- ・認定地域の総合計画では、日本遺産を活かした観光振興や郷土愛の醸成が位置づけられている。また、観光基本計画や文化財基本計画はもちろんのこと、都市計画などにも日本遺産の関連項目を設定している。
- ・認定地域内だけではなく、同県内や同地方内の日本遺産認定地域との連携を推し進めており、中・広域での観光振興に努めている。

(6) 実施体制**○協議会の名称**

教育遺産世界遺産登録推進協議会（水戸市，足利市，備前市，日田市で組織）

○役職員

会長 高橋 靖（水戸市長）

副会長 早川 尚秀（足利市長）

副会長 吉村 武司（備前市長）

副会長 原田 啓介（日田市長）

○構成団体

- ・水戸市（歴史文化財課，観光課，市街地整備課，都市計画課）
- ・足利市（文化課，史跡足利学校事務所，企画政策課，広報課，財政課，観光振興課）
- ・備前市（文化振興課，企画課，産業観光課，都市住宅課，学校教育課，社会教育課）
- ・日田市（世界遺産推進室，咸宜園教育研究センター，文化財保護課，観光課，地方創生推進課）
- ・水戸商工会議所，足利商工会議所，備前商工会議所，日田商工会議所
- ・各市が指名する専門家
- ・茨城県（文化課，観光物産課，都市整備課：偕楽園公園センター，弘道館事務所）
- ・栃木県（文化財課）
- ・岡山県（文化財課）
- ・大分県（文化課）

[民間事業者との連携]**○地域の民間協力団体**

*協議会の正式な構成員（組織・団体）ではないが、恒常的な協力関係にある団体

①企業・法人

- ・一般財団法人日新塾精神頭揚会：説明板の設置，リーフレットの制作
- ・水戸商工会議所青年会：イベントの実施，広報誌への情報掲載
- ・一般社団法人水戸観光コンベンション協会：地域プレイヤーの育成，モデルコースの策定，イベントの実施など
- ・スポーツ振興協会：広報誌への情報掲載

- ・一般社団法人足利市観光協会：地域プレイヤーの育成，モデルコースの策定，イベントの実施等
- ・公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会：構成文化財の保護など
- ・一般社団法人備前市観光協会：地域プレイヤーの育成，イベントの実施など
- ・一般社団法人日田市観光協会：地域プレイヤーの育成，モデルコースの策定，イベントの実施等
- ・公益財団法人廣瀬資料館：構成文化財に関する展示，イベントの実施など

②民間団体

- ・偕楽園公園を愛する市民の会：構成文化財での普及啓発活動の実施
- ・三の丸自治コミュニティ連合会：地域プレイヤー
- ・偕楽園四季の会：構成文化財の情報発信
- ・日新塾再建委員会：構成文化財の保護に係る地域団体
- ・吉田塾：弘道館での論語塾の実施
- ・足利市文化財愛護協会：構成文化財の保護・調査に関する団体
- ・史跡足利学校論語素読運営委員会：イベントの実施
- ・史跡足利学校釋奠保存委員会：祭礼の実施（釋奠）
- ・伊里地区まちづくり会議：構成文化財の普及啓発，イベントの実施
- ・熊沢蕃山顕彰保存会：構成文化財の普及啓発，情報発信
- ・咸宜園放学遊山の会：イベントの実施
- ・咸宜園平成門下生之会：調査・研究活動，講演会・学習会の実施
- ・日本遺産活性化懇話会：観光事業等の検討会議の実施

③その他（地域プレイヤー）

市民観光ボランティア歴史アドバイザー水戸，子ども史跡ガイド魁二の丸隊，足利観光案内人，備前市観光ボランティアガイド，豆田町上町商店会，豆田町みゆき通り商店会

○日本遺産認定地域との連携

水戸市：茨城県笠間市，牛久市

足利市：群馬県桐生市，館林市

備前市：中国・四国地方の日本遺産認定地域（約20地域），東備西播定住自立圏（赤穂市）

日田市：大分県中津市，玖珠町，豊後高田市，国東市，他山口県，九州地方の認定自治体

本協議会は，茨城県水戸市，栃木県足利市，岡山県備前市，大分県日田市の4市を中心に事業を推進している。

日本遺産による地域の活性化を目指す為，4市の商工会議所も協議会に参画しており，商工会議所を通して，地域の商店会や民間企業にも日本遺産の普及啓発などの取組みに協力してもらっている。

県と市でも，文化財や観光，商工，広報などを担当する部局とも連携をとっており，日本遺産を活用した動画やリーフレットの作成，構成文化財での企画展の開催などにも取り組んでいる。

また，民間企業や各種法人による広報紙への情報掲載，ボランティアガイドや地域コミュニティ会員への日本遺産を中心とした現地説明会や講習会の実施，小中学校の生徒への日本遺産リーフレット，普及啓発品の配布，児童・生徒による日本遺産と地域の歴史・文化を絡めた学習発表といった，地域が主体となる活動を進めている。

日本遺産の事業計画は協議会の総会にて会長以下，委員の承認を受けた上で決定している。決定した事業計画に基づき，各市の事務担当者による事務連絡会議などで具体的な内容を検討・実施している。

(7) 地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	<p>国内外に向けて、日本遺産や地域の観光情報を積極的かつ定期的に発信し、観光客や構成文化財の来訪者数の増加につなげる。また、ハード面での多言語ガイドンス設備の整備やVR技術の活用、ソフト面でのガイドボランティアの養成や多言語アプリケーションの活用などにより、日本人だけでなく外国人も含めた観光客の満足度の向上やリピーターの増加につなげる。</p> <p>さらに、若年層への普及啓発品や学習教材の配布、地域住民に向けた講習やイベントの開催を通して、日本遺産や地域の歴史・文化に対する愛着や誇りを醸成し、将来に向けて日本遺産のみならず、地域の重要な文化財の保存・活用が確実に行われることを期待する。</p>
---------	--

*以下、設定目標に記載する令和2年度の数值は、特別な記載を除き令和3年1月末の数值とする。

設定目標 I : 日本遺産を活用した集客・活性化						
観光客入込み数		具体的な指標：主な構成文化財（弘道館、借楽園、足利学校、閑谷学校、咸宜園、豆田町）の来訪者数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数值(人)	1,731,595	1,402,300	374,703	1,416,300	1,430,400	1,444,700
目標値の設定の考え方及び把握方法	主な構成文化財の各年度目標値の合計 *コロナウイルスの影響を考慮し、令和元年度の各入館者数を基準とする。なお、目標伸率は1.0%に設定					
関連事業	4-①, ②, ③, ④, ⑤, 5-①, ②, ③, ④, 6-①, ②, ③, ④, ⑤, 7-①					

設定目標 I : 日本遺産を活用した集客・活性化						
観光客入込み数		4市の年間観光客数の合計				
年度	実績			目標		
	平成29年	平成30年	令和1年	令和3年	令和4年	令和5年
数值(人)	13,369,331	13,290,958	13,243,887	13,376,300	13,510,000	13,645,100
目標値の設定の考え方及び把握方法	4市の年間観光客数の目標値の合計 *各市、令和元年度の年間観光客数を基準とする。なお、目標伸率は1.0%に設定する。					
関連事業	4-①, ②, ③, ④, ⑤, 5-①, ②, ③, ④, 6-①, ②, ③, ④, ⑤, 7-①					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
外国人観光客数		具体的な指標：4市の主な構成文化財（弘道館，足利学校，閑谷学校，咸宜園）の外国人来訪者数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (人)	5,344	4,949	—	5,000	5,050	5,100
目標値の設定の考え方 及び把握方法	主な構成文化財の外国人来訪者数の目標値の合計 ＊コロナウイルスの影響を考慮し，各施設，令和元年度の外国人来館者数を基準とする。なお，目標伸率は1.0%に設定					
関連事業	4-①，⑤，7-①，②					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
外国人観光客数		4市の外国人宿泊者数の目標値合計				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (人)	190,394	147,686	—	147,970	149,450	150,950
目標値の設定の考え方 及び把握方法	4市の外国人宿泊者数目標値の合計 ＊コロナウイルスの影響を考慮し，各市，令和元年度の宿泊者数を基準とする。なお，目標伸率は1.0%に設定					
関連事業	4-①，⑤，7-①，②					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
観光客の満足度		主な構成文化財等を訪れた観光客の満足度				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (%)	—	—	—	70	75	80
目標値の設定の考え方 及び把握方法	コロナウイルス感染症の影響により，直近の調査を行うことができていないため，令和3年度にアンケートを行い，認知度70%を目標とする。その結果を基準とし，前年比5%の上昇を目指す。					
関連事業	2-①，4-①，③，⑤					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じ る住民の割合		具体的な指標：認定自治体内で開催した講演会や出前講座 などのアンケート結果				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (%)	—	—	—	70	75	80
目標値の設定の考え方 及び把握方法		コロナウイルス感染症の影響により、直近の調査を行うことができ ていないため、令和3年度にアンケートを行い、認知度70%を 目標とする。その結果を基準とし、前年比5%の上昇を目指す。				
関連事業		6-①, ③, ④				

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産の認知度		具体的な指標：認定自治体内で開催した講演会や出前講座 などのアンケート結果				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (%)	—	—	—	70	75	80
目標値の設定の考え方 及び把握方法		コロナウイルス感染症の影響により、直近の調査を行うことができ ていないため、令和3年度にアンケートを行い、認知度70%を 目標とする。その結果を基準とし、前年比5%の上昇を目指す。				
関連事業		6-①, ②, ③, ④				

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産を活用した取組 数		具体的な指標：構成文化財で開催された民間主催のイベント などの数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (件)	32	35	—	30	32	33
目標値の設定の考え方 及び把握方法		認定期間中の4市合計年間平均イベント数が約30件となってい る。これを基準とし、毎年1件の増加を目標に設定				
関連事業		1-②, 6-⑥				

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
日本遺産のためのふるさと納税額		具体的な指標：構成文化財の保護・保存や活用，日本遺産の観光振興に使用用途を限定した納税額の合計				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (千円)	25,080	12,390	—	11,220	11,330	11,440
目標値の設定の考え方 及び把握方法	平成27年度から令和元年度の5年間の平均納税額が約1,100万円となっている。この金額を基準とし，毎年1.0%の伸率達成を目指す。					
関連事業	4-④					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
日本遺産への協力団体数		具体的な指標：日本遺産での観光・地域振興に関わる協力団体数の合計				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (団体)	29	25	26	26	27	28
目標値の設定の考え方 及び把握方法	令和2年度の協力団体数は26団体となっている。これを基準とし，毎年1団体の増加を目標に設定					
関連事業	1-②， 6-⑥					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
観光ボランティアガイドの活動		具体的な指標：認定地域内におけるガイドボランティアの活動件数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値 (件)	5,402	3,127	—	5,050	5,100	5,150
目標値の設定の考え方 及び把握方法	平成27年度から令和元年度の5年間の平均活動件数が5,000件のため，それを基準とし，毎年50件ずつの増加を目標とする。					
関連事業	1-①， 3-①					

(8) 地域活性化のために行う事業

(8) - 1 組織整備

(事業番号 1 - ①)

事業名	日本遺産地域プレイヤーの組織化		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各市でそれぞれ管理している日本遺産地域プレイヤー（約 900 名：観光ボランティアガイドや地域コミュニティ団体の会員）を協議会内部組織として新たに編成し、より実効的な組織に組み替える。 ・新たな地域プレイヤーには協議会で実施する講習会に出席してもらい、観光案内に生かしてもらう。また、協議会で計画した講演会やモニターツアーなどの行事でサポーターメンバーとして同行してもらう。 <p>【事業スケジュール】</p> <p>令和 3 年度 編成の検討, 関連団体との協議</p> <p>令和 4 年度 地域プレイヤーの募集</p> <p>令和 5 年度 地域プレイヤー活動開始</p> <p>* 解説ボランティア, モニターツアー等の実施</p>		
実施主体	協議会, 市, 法人		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	個人サポーター	具体的な指標	地域プレイヤーの活動件数
実績値	【参考】観光ボランティアガイドの活動件数 平成 30 年度：5,402 件 令和 1 年度：3,127 件 令和 2 年度：集計中		
目標値	令和 3 年度：5,050 件 令和 4 年度：5,100 件 令和 5 年度：5,150 件		
事業費	令和 3 年度：0 円 令和 4 年度：300 千円 令和 5 年度：500 千円		

(事業番号 1 - ②)

事業名	民間団体からの提案による事業実施		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法人パートナーや認定地域内の民間団体に対し、日本遺産や構成文化財の魅力発信に関わる事業を募集する。 ・提案のあった事業実施の可否について協議会で審査し、実施が適切と認められる事業の費用の一部を補助する。 <p>【事業スケジュール】</p> <p>令和 3 年度～4 年度 募集要項の作成, 関係団体との協議</p> <p>令和 4 年度末 令和 5 年度事業の募集</p> <p>令和 5 年度 事業実施</p>		
実施主体	民間団体, 協議会		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	民間団体による事業数	具体的な指標	事業実施件数
実績値	実績値はなし		
目標値	令和 3 年度：－ 令和 4 年度：－ 令和 5 年度：2 件		

事業費	令和3年度：0円 令和4年度：100千円 令和5年度：500千円
-----	----------------------------------

(8) - 2 戦略立案

(事業番号2-①)

事業名	マーケティング調査の実施及び戦略の策定		
事業内容	<p>・認定地域内における日本遺産の地域コンセプトや事業戦略を検討するためのマーケティング調査を実施する。</p> <p>【実施理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで各県の観光動態調査や市内で実施したイベントアンケートなどを基に戦略を立ててきたが、認定6年を迎えるにあたり、新たな地域コンセプトや事業戦略を策定する必要がある。 ・ポストコロナを迎えるにあたって、新たなインバウンド向け戦略を策定する必要がある。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市の構成文化財や展示施設等でのアンケート調査 ・結果に伴う地域コンセプト及び事業戦略の検討 <p>【調査対象】</p> <p>構成文化財や市内展示施設の来訪者など</p> <p>【必要有効回答数】</p> <p>2,000回答</p> <p>【設定根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4市の主な構成文化財の年間来訪者数が約40万人となっている。 ・許容誤差5%とする場合、母数10万人に対し、約500人の有効回答数が必要となる。 <p>【事業スケジュール】</p> <p>令和3年度 アンケート内容の検討、作成、アンケート実施 令和4年度 調査結果の検討と地域コンセプト・事業戦略案作成 令和5年度 地域コンセプト・事業戦略の決定</p>		
実施主体	協議会，市，県		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ブランド力の認知度	具体的な指標	日本遺産の認知度（アンケート結果）
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：－ 令和4年度：75% 令和5年度：－		
事業評価指標	観光客の満足度	具体的な指標	満足度（アンケート結果）
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：－ 令和4年度：75% 令和5年度：－		
事業費	令和3年度：0円 令和4年度：200千円 令和5年度：0円		

(8) - 3 人材育成

(事業番号3-①)

事業名	日本遺産ガイドボランティア養成		
事業内容	各市内の観光ボランティアガイドに対して養成講座を実施し、ガイドの日本遺産の制度や構成文化財の歴史などについて理解を深める。 【目的】 ・現在、ガイドボランティアに登録している人材の強化 ・新規ガイドボランティア登録者数の増加		
実施主体	協議会、4市の観光協会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレイヤーの活動件数	具体的な指標	ガイドボランティア養成講座の後年度活動者数
実績値	平成30年度：5,402件 令和1年度：3,127件 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：5,050件 令和4年度：5,100件 令和5年度：5,150件		
事業費	令和3年度：289千円 令和4年度：289千円 令和5年度：289千円		

(8) - 4 整備

(事業番号4-①)

事業名	補助金を活用した展示施設改修		
事業内容	<p>・構成文化財内や市内の展示施設を日本遺産の情報発信センターへと改修する。</p> <p>・改修に当たっては、</p> <p>①ガイダンス設備の多言語化</p> <p>②体験型メニューの導入</p> <p>*近世の日本人が学んでいた教育内容を体験できるもの</p> <p>以上、2点に留意する。</p> <p>・改修に当たっては、Living History（生きた歴史体感プログラム）促進事業もしくは文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業の補助金を活用する。</p> <p>【事業計画】</p> <p>令和3年度 改修拠点・内容の調整、総事業費の算出など</p> <p>令和4年度、5年度 補助金を活用した事業を実施</p>		
実施主体	協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の満足度	具体的な指標	構成文化財を来訪者の満足度
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の観光客数

実績値	平成29年度：13,369,331人 平成30年度：13,290,958人 令和1年度：13,243,887人		
目標値	令和3年度：13,376,300人 令和4年度：13,510,000人 令和5年度：13,645,100人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の 来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の 外国人来訪者数
実績値	平成30年度：5,344人 令和1年度：4,949人 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：5,000人 令和4年度：5,050人 令和5年度：5,100人		
事業費	令和3年度：0円 令和4年度：1,000千円 令和5年度：1,000千円		

(事業番号4-②)

事業名	都市景観形成助成事業		
事業内容	水戸市と足利市では、構成文化財の周辺地区において構成文化財と調和する都市景観づくりに寄与する行為に対して助成金を交付し、教育遺産群を含む周辺の歴史的景観の向上を推進する。		
実施主体	市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	弘道館の入館者数
実績値	平成30年度：81,952人 令和1年度：57,418人 令和2年度：16,981人（令和2年12月末）		
目標値	令和3年度：58,000人 令和4年度：71,200人 令和5年度：84,400人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	足利学校の入館者数
実績値	平成30年度：162,494人 令和1年度：142,492人 令和2年度：47,364人（令和2年12月末）		
目標値	令和3年度：144,000人 令和4年度：155,500人 令和5年度：167,000人		
事業費	令和3年度：4,627千円 令和4年度：6,000千円 令和5年度：6,000千円		

(事業番号4-③)

事業名	構成文化財の施設整備		
事業内容	【事業例】 ・ 借楽園, 弘道館のバリアフリー化 (導線整備) ・ 借楽園における歴史的建物の復元		
実施主体	県		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の満足度	具体的な指標	構成文化財を来訪者の満足度
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	借楽園及び弘道館の来訪者数
実績値	平成30年度：1,041,805人 令和1年度：677,807人 令和2年度：187,719人		
目標値	令和3年度：684,600人 令和4年度：704,100人 令和5年度：723,600人		
事業費	令和3年度：100,000千円 令和4年度：26,000千円 令和5年度：4,000千円		

(事業番号4-④)

事業名	ふるさと納税を活用した構成文化財の整備・活用		
事業内容	足利市, 備前市では構成文化財の保存や整備, 活用, 魅力発信などに使用用途限定したふるさと納税を行っており, これを活用して, 構成文化財の補修や観光誘客に向けた環境整備につなげる。 * 令和4年度以降の事業費は前年度の納税額に応じて, 逐次計上		
実施主体	市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	足利学校の入館者数
実績値	平成30年度：162,494人 令和1年度：142,492人 令和2年度：47,364人 (令和2年12月末)		
目標値	令和3年度：144,000人 令和4年度：155,500人 令和5年度：167,000人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	閑谷学校の入館者数
実績値	平成30年度：94,942人 令和1年度：88,431人 令和2年度：48,014人 (令和2年12月末)		
目標値	令和3年度：89,300人 令和4年度：93,550人 令和5年度：97,800人		
事業費	令和3年度：5,000千円 令和4年度：未定 令和5年度：未定		

(事業番号4-⑤)			
事業名	構成文化財におけるガイダンス施設展示整備・映像製作		
事業内容	構成文化財の本質的価値をより深く理解するための解説板や映像等を作成する。 【事業例】 ・弘道館における展示施設整備・映像制作		
実施主体	県		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の満足度	具体的な指標	構成文化財を来訪者の満足度
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の外国人来訪者数
実績値	平成30年度：5,344人 令和1年度：4,949人 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：5,000人 令和4年度：5,050人 令和5年度：5,100人		
事業費	令和3年度：104,062千円 令和4年度：18,000千円 令和5年度：未定		

(8) - 5 観光事業化

(事業番号 5 - ①)

事業名	偕楽園周辺整備事業		
事業内容	<p>茨城県が策定した、「偕楽園魅力向上アクションプラン」に関連して国の補助金を一部活用し、偕楽園公園脇に位置するポーリング場跡地に観光客用の駐車場を整備する。</p> <p>また、千波湖西駐車場に公募設置管理制度 (Park-PFI) を活用し、観光客集客施設を民間主導で建設する。</p> <p>【事業スケジュール】</p> <p>令和 3 年度 駐車場の整備</p> <p>令和 4 年度 観光誘客施設の公募</p> <p>令和 5 年度 観光誘客施設の建設</p> <p>* なお、令和 4 年度、5 年度の事業費は、公募による民間事業者の決定後に詳細が決定する。</p>		
実施主体	水戸市、民間事業者		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	偕楽園の入園者数
実績値	平成 30 年度：959,853 人 令和 1 年度：620,389 人 令和 2 年度：170,738 人 (令和 2 年 12 月末)		
目標値	令和 3 年度：626,600 人 令和 4 年度：632,900 人 令和 5 年度：639,200 人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	水戸市の観光入れ込み客数
実績値	平成 30 年度：3,676,200 人 令和 1 年度：3,742,000 人 令和 2 年度：集計中		
目標値	令和 3 年度：4,000,000 人 令和 4 年度：4,250,000 人 令和 5 年度：4,500,000 人		
事業費	令和 3 年度：72,000 千円 令和 4 年度：未定 令和 5 年度：未定		

(事業番号 5 - ②)

事業名	偕楽園月池地区整備事業 (P-PFI 制度を活用した飲食施設の整備)		
事業内容	<p>茨城県では、偕楽園及びその周辺エリアの魅力向上を図るため、水戸市と連携し、公園マネジメントや観光などの有識者による検討会を行い、令和 2 年 5 月に「偕楽園魅力向上アクションプラン」を取りまとめた。</p> <p>同アクションプランを踏まえ、偕楽園拡張部において県内初の P-PFI 制度を活用した飲食店等の公募を行い、同年 8 月に外部有識者による審査を経て、事業者 (公募設置等予定者) を認定した。</p> <p>令和 3 年度に実施協定を締結し、同年度内に開業予定。その後は P-PFI 制度の趣旨に則り、公園管理も含め民間資本により実施していく。</p>		

実施主体	偕楽園月池パークレストラン共同体（代表法人 アイ・ケイ・ケイ(株)）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	偕楽園の入園者数
実績値	平成30年度：959,853人 令和1年度：620,389人 令和2年度：170,738人（令和2年12月末）		
目標値	令和3年度：626,600人 令和4年度：632,900人 令和5年度：639,200人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	水戸市の観光入れ込み客数
実績値	平成30年度：3,676,200人 令和1年度：3,742,000人 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：4,000,000人 令和4年度：4,250,000人 令和5年度：4,500,000人		
事業費	令和3年度：50,000千円 令和4年度：未定 令和5年度：未定		

(事業番号5-③)

事業名	構成文化財周遊モデルコースの整備		
事業内容	各市で構成文化財を中心として周辺の文化財や観光名所を周遊するモデルコースを整備して、構成文化財と周辺の観光客増加を図る。 【事業スケジュール】 令和3年度 従来のコース見直しと新規コースの設定 令和4年度～コース紹介のリーフレット等作成		
実施主体	協議会・市・民間事業者		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の観光客数
実績値	平成29年度：13,369,331人 平成30年度：13,290,958人 令和1年度：13,243,887人		
目標値	令和3年度：13,376,300人 令和4年度：13,510,000人 令和5年度：13,645,100人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：0円 令和4年度：100千円 令和5年度：100千円		

(事業番号5-④)

事業名	日本遺産交流ツアー		
事業内容	協議会を構成する4市それぞれの市民を中心として、他3市の教育遺産群をめぐるツアーのパッケージ化を作成する。あわせて、他の認定自治体へのツアーも検討する。 【事業スケジュール】 令和3年度 ツアー案の検討 令和4年度～ツアー開催		
実施主体	協議会・市・民間事業者		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の観光客数
実績値	平成29年度：13,369,331人 平成30年度：13,290,958人 令和1年度：13,243,887人		
目標値	令和3年度：13,376,300人 令和4年度：13,510,000人 令和5年度：13,645,100人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：0円 令和4年度：0円 令和5年度：0円		

(8) - 6 普及啓発

(事業番号6-①)

事業名	日本遺産普及啓発イベント		
事業内容	日本遺産の普及啓発のため、モニターツアーや交流事業、体験学習、構成文化財の特別公開を実施 【事業例】 ・子ども交流事業（子ども向けモニターツアー：足利市、笠間市、牛久市を訪問予定） ・史跡巡り（市内の文化財等のモニターツアー） ・構成文化財での体験講座（論語の素読、和算など） ・構成文化財のライトアップ、夜間公開		
実施主体	協議会、市、県、民間事業者		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：600千円 令和4年度：500千円 令和5年度：500千円		

(事業番号6-②)

事業名	普及啓発品の制作・配布		
事業内容	日本遺産の認知度や地域の文化に誇りを持つ人材の醸成を目的として、普及啓発品を製作・配布する。 【制作例】 ・コットンバック、リーフレット、クリアファイル、漫画、絵本など		
実施主体	協議会、市、県、民間事業者		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数

実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人
事業費	令和3年度：4,749千円 令和4年度：780千円 令和5年度：780千円

(事業番号6-③)

事業名	日本遺産に関する講演会の実施		
事業内容	日本遺産の認知度や地域の歴史・文化に誇りを持つ人材の育成を目的にシンポジウムや講演会，出前講座，出前授業を実施する。 【実施事例】 フォーラム「近世日本の教育遺産群を世界遺産に」 講演会「渋沢栄一と水戸の学問・そして人々（仮称）」 本開館及び仮開館記念の日特別講座 「咸宜園の日」記念シンポジウム *その他，小中学絵生向けの出前授業，地域住民やボランティアガイド向けの出前講座を実施する		
実施主体	協議会，市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	日本遺産の認知度
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：1,249千円 令和4年度：599千円 令和5年度：599千円		

(事業番号6-④)

事業名	日本遺産認定地域間連携
事業内容	同じ地方や県内で日本遺産に認定されている団体と連携し，普及啓発イベントや講演会，シンポジウムなどを開催し，認知度向上や観光客の増加を目指す。

	【連携事例】 ①茨城県内日本遺産連携（水戸市，牛久市，笠間市） ②栃木県・群馬県連携（足利市，群馬県桐生市，館林市） ③中国・四国地方日本遺産連携（約20地域：備前市） ④東備西播定住自立圏（備前市，赤穂市） ⑤大分県内連携（日田市，中津市，玖珠町，豊後高田市，国東市） ⑥九州地方連携（日田市，他，九州地方の認定地域）		
実施主体	協議会，市，県，民間事業者		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	日本遺産の認知度
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
実績値	平成30年度：－ 令和1年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：100千円 令和4年度：500千円 令和5年度：500千円		
(事業番号6-⑤)			
事業名	構成文化財及び市内の展示施設での企画展・特別展の開催		
事業内容	日本遺産の構成文化財や市内の展示施設において，日本遺産や構成文化財，地域の歴史・文化などに関する展示を実施する 【実施予定】 ・パネル展示「渋沢栄一と水戸の人々」（開催中：～令和3年12月26日まで） ・特設展示「水戸藩の私塾・家塾（仮）」 ・特設展示「水戸に残る徳川頼房の足跡（仮）」 ＊その他の展示内容については調整中		
実施主体	協議会，市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人		

目標値	令和2年度：374,703人		
	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人		
	令和5年度：1,444,700人		
事業費	令和3年度：880千円 令和4年度：500千円 令和5年度：500千円		
(事業番号6-⑥)			
事業名	民間事業者や地域住民による日本遺産の事業や商品開発提案		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化を図ることを目的に、日本遺産の活用及び地域振興に関する活動を行う団体に補助金を交付する。 ・市民提案に基づき、日本遺産に関連するアイデアを商店街等と協力し商品開発する。 		
実施主体	市，民間事業者，市民		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	民間主催のイベントなどの数	具体的な指標	構成文化財で開催された民間主催のイベントなどの数
実績値	平成30年度：32件 令和1年度：35件 令和2年度：23件		
目標値	令和3年度：31件 令和4年度：32件 令和5年度：33件		
事業費	令和3年度：1,100千円 令和4年度：1,100千円		
	令和5年度：1,100千円		

(8) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-①)

事業名	ホームページやSNS, アプリを活用した観光誘客		
事業内容	国内外の観光客に向け、補助金で制作した多言語日本遺産ホームページ（5か国語）や文化庁の日本遺産ポータルサイトなどを活用し、構成文化財でのイベント情報や観光情報を発信する。 また、国内外の観光客向けに開発・整備した多言語ナビゲーションアプリの利用促進を図り、観光客の誘客を目指す。		
実施主体	協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の来訪者数
実績値	平成30年度：1,731,595人 令和1年度：1,402,300人 令和2年度：374,703人		
目標値	令和3年度：1,416,300人 令和4年度：1,430,400人 令和5年度：1,444,700人		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の外国人来訪者数
実績値	平成30年度：5,344人 令和1年度：4,949人 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：5,000人 令和4年度：5,050人 令和5年度：5,100人		
事業費	令和3年度：510千円 令和4年度：510千円 令和5年度：510千円		

(事業番号7-②)

事業名	教育遺産群の情報発信事業（多言語解説, VR, デジタルデータなど）		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語解説整備支援事業で整備した施設内の看板等に設置したQRコードを読み込ませる多言語ガイダンスの広報, 周知を実施 ・多言語解説整備支援事業で整備した史跡のVRを活用し, サミット等イベントでストーリーを体感してもらう ・日本遺産構成文化財や地域の重要な文化財の三次元データや関連する動画, 写真の公開 		
実施主体	市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	4市の主な構成文化財の外国人来訪者数
実績値	平成30年度：5,344人 令和1年度：4,949人 令和2年度：集計中		
目標値	令和3年度：5,000人 令和4年度：5,050人 令和5年度：5,100人		
事業費	令和3年度：0円 令和4年度：800千円 令和5年度：800千円		